

目的 前報に引続き、防しわ性以外の消費科学的性能として、吸湿・吸水性、速乾性、引張強度などをもとり上げ、curing 条件との関連性について検討を行なつた。

方法 樹脂加工剤及び curing 条件は、前報と同様である。上記性能に関する測定は、JIS L-1096 に準じて行なつた。

結果 吸湿性は、標準状態で水分率を求めることによつて検討した結果、ソーセングなしの場合、レーヨンでは5%減少、綿では25%減少と、樹脂加工による吸湿性の低下がみられた。樹脂剤及び curing 条件の影響はほとんどみられなかつた。ソーセングすると、いずれも吸湿性は上昇するが、これは樹脂剤の脱離するためと考えられる。吸水性も、吸湿性と同様、樹脂剤、curing 条件の違いはほとんどみられなかつた。レーヨンでは未加工布とほぼ同様の傾向がみられ、綿の場合には、吸水性の低下する傾向にある。速乾性については、樹脂加工すると、樹脂剤、curing 条件にかかわらず、乾燥速度が上昇する。ここに、樹脂加工により、吸湿・吸水性の低下することとの関連性が考えられる。次に、引張強度については、樹脂加工すると、全体的に強度は低下するが、この場合、curing 温度が高温になるほど、また、温度に関係なく時間が長くなるほど、低下は著しい。低温で長時間処理した場合(e.g. 130°C 30分)と、高温で短時間処理した場合(e.g. 180°C 3分)では、高温で短時間処理の方が、強度はやや良好である。経時による強度変化は、いずれの curing 条件においても3か月間では、ほとんどみられなかつた。以上のことから、curing 条件の影響をうけるのは防しわ性と共に引張強度であり、他の性能に対する影響はあまりみられなかつた。